平成30年度第３回市民ボランティア講座『広がれ子ども食堂の輪』全国ツアー in 青森を開催

平成31年２月２日(土)、弘前大学を会場に、平成30年度第３回市民ボランティア講座『広がれ子ども食堂の輪』全国ツアー in 青森を、社会福祉法人青森県社会福祉協議会、『広がれ子ども食堂の輪』全国ツアー実行委員会と共催で開催しました。

本講座は、子どもの貧困問題・孤食問題への対応策の一つとして全国に広まっている子ども食堂への理解を深め、少子化が進展しているこの地域において子ども達への支援の輪を広めることを目的として実施しました。

同講座は３部構成で開催され、第１部「子ども食堂体験」では、子ども食堂の運営を目指す団体・個人や、子ども食堂を利用したいが実態が分からず抵抗を感じている方々へ、軽食や学習支援、遊びを提供し、子ども食堂の多様な有り方について学びました。

第２部では、NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 理事長 栗林 知絵子 氏から「地域を変える、子どもが変わる、未来を変える」と題して、自身の活動を通じて経験した子どもの様々な問題や全国の事例の提供のほか、地域住民が関わることで、住民皆の居場所になりうること、一団体の力は小さくても、ネットワークを構築することで継続的な活動が可能となることなどについてご講演いただきました。

第３部は分科会として、子ども食堂の基礎知識や開業の際の注意点などについての情報提供や意見交換を行う「たまご相談室」と、子ども食堂の運営者や開業準備をしている個人・団体を対象に、抱えている問題についての相談や今後の活動の注意点などについて情報提供及び意見交換を行う「ひよこ相談室」を実施しました。どちらの相談室も時間いっぱい相談や活発な意見交換が行われました。

最後に、本センター李 副センター長から、地域を守るために子ども食堂は非常に大きな役割を果たすことができると考えており、青森県全体で連携して今後も子ども食堂や学習支援の展開を進めて行くことが重要と捉え、本センターも学生力を活用しながら役割を担っていきたい旨の総括がありました。

本講座には、子ども食堂運営者、福祉・行政関係者、本学教職員・学生など全体で約80名の方々にご参加いただきました。今後も本センターでは、子どもが抱える様々な問題へ取り組んでいく予定です。

子ども食堂体験の様子

講演する栗林氏

たまご相談室の様子

ひよこ相談室の様子

ボランティアへのご参加、募集等について

ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- 弘前市民の方　・・・・**弘前市ボランティア支援センター　TEL：0172-38-5595**
- 弘前大学関係者　・・・**弘前大学ボランティアセンター　E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp**

学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。
詳しくはボランティアセンターのホームページをご覧いただくか、センターへ直接お電話等でご相談ください。
（※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。）

- 弘前大学ボランティアセンター・・・・**ＨＰ：http://huvc.net/　TEL：0172-39-3268**
  平日午前10時～午後３時

弘前大学ボランティアセンター（HUVC）　平日午前10時～午後３時
〒036-8560　青森県弘前市文京町１番地
TEL：0172-39-3268　FAX：0172-34-5251　E-mail：huvc@hirosaki-u.ac.jp

2019年3月 発行

弘前大学ボランティアセンター（HUVC）

News Letter

第７号

北海道胆振東部地震　厚真町視察活動報告

平成30年９月24日～25日、本センター李 副センター長と、学生事務局の菅原哲(教育学部２年)、垣内雅仁(教育学研究科１年)の３名が北海道厚真町にて災害ボランティア活動及び現地調査を行いました。24日は現地ボランティアセンターの現状や、地滑りなどによる被害状況の調査、翌25日には、厚真町災害ボランティアセンター設立当初から活動に参加していた本センター学生事務局OBで、北海道在住の南部 真人 氏(現小樽市役所職員)の案内のもと、厚真町災害ボランティアセンターのマッチングによって割り当てられた、家財道具や瓦礫の撤去作業を行いました。

また、視察活動後は夏休み明け、10月12日からは学内において募金活動を開始。２月末時点で募金総額は26,419円となりました。

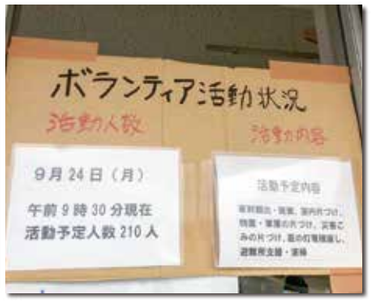
〈学生からの報告〉

初日の24日は、まず情報収集のため災害ボランティアセンターを訪れました。センターは厚真町のみならず、全道各地の社会福祉協議会等から派遣された方々がローテーションを組み、運営されていました。センター前に掲げられたボードによると、この日のボランティア活動者数は210名、活動内容としては、家財の搬出や廃棄、屋内外の清掃、避難所支援等とのことでした。現地の方から、吉野地区の被害が甚大との情報を入手し、現地に向かいました。死亡者が出た吉野地区は、山に沿って住宅が建てられており、その大半が山の中腹から崩れ落ちた土砂により押しつぶされ、道路上にも多くの土砂が堆積していました。一方で、町役場等のある中心部では建物等への被害は大して見受けられず、中心部とその周辺との被害状況の差が印象的でした。

25日は、２件の個人宅で活動しました。１件目は裏山が崩れ、100mほど押し寄せてきたという土砂と倒木が畑に堆積していました。倒木をチェーンソーで切断して人力で運び、トラックに載せるという作業を繰り返しました。高齢夫婦のお宅では、自分たちではとても処理できなかったという倒壊した小屋と多くの災害ごみを分別し、軽トラックで集積場までの往復を繰り返しました。作業を終えたところで、被災前まで生活されていたお宅を見せてくださいました。建物は地滑りにより数十センチ移動し全体が傾き、庭先は地割れが幾筋も走っていました。

今回の視察で、地震の揺れそのものよりも、それによって引き起こされた土砂崩れ、地滑りによる被害が大きかった様子や、災害の復旧には一人でも多くのマンパワーが必要であることを実感しました。

（担当：教育学研究科１年　垣内雅仁）



厚真町ボランティアセンター活動状況の掲示

厚真町ボランティアセンターでの受付

なだれの倒木を搬出する為に切断

切断した倒木の搬出

倒壊した家屋と災害ゴミ分別の様子

学内での募金活動の様子

平成30年度 除雪ボランティア

平成30年11月1日(木)、弘前市道路維持課が主催する弘前市直営除雪隊結団式が開催され、本学ボランティアセンター学生事務局から3名が出席しました。代表の人文社会科学部3年の山崎健さんは「本年度も雪で困っているお年寄りや小学生の皆さんなどのため、地域住民が快適な生活を送れるように事故のないよう精一杯ボランティア活動を行いたい」と、誓いのことばを述べました。続いて、ダビデ保育園・サムエル保育園の児童から花束を、また、櫻田弘前市長からは記念品として除雪用具が贈呈されました。

今年度は1月26日(土)、2月16日(土)の2回活動を実施しました。1月26日は文京町において教員2名、学生11名が参加し、センター試験前の文京町周辺の歩道やバス停などの除雪活動を実施しました。2月16日は15名の参加学生が、富士見町の歩道を除雪活動を実施しました。

除雪車前での記念撮影

文京町歩道の除雪活動

平成30年度 野田村支援交流活動　クリスマス会

平成30年12月22日(土)、本センター李 副センター長と、弘前大学学生ボランティア5名が野田村城内地区児童クラブに赴き、野田村クリスマス会を実施しました。

本事業は平成25年から、6年間継続実施しており、今年度は22名の児童が参加しました。

〈学生からの報告〉

野田村児童クラブでクリスマス会を開催しました。プログラムは工作とレクリエーションです。

工作は、絵を描いたプラ板、アルミホイル、画用紙を重ねることによりステンドグラスのように見えるものを作りました。みんな丁寧に作ってくれました。作業工程が多かった為か時間がかかったので、次回はもう少し簡単な工作にするなど課題は残りましたが、自分だけのステンドグラスができ、子供達にはいいプレゼントになったかと思いました。

3チームに分かれてのレクリエーションでは、「ひっくり返しゲーム」が一番盛り上がりました。これは円く切った段ボールの両面に絵を描き、それを自分のチームに与えられた絵の面にひっくり返すゲームです。自分のチームの面に返した途端に、相手チームに返されるため、スピードも必要です。ひっくり返すために床に滑り込む子供がたくさんいて元気な姿を見ることができました。

終始楽しい雰囲気で終えることができたクリスマス会でしたが、私達が子供達を上手くリードできず、全体に子供達にペースを握られてしまったことなどを、帰りの道中で反省しました。今後子供達と触れ合う機会があれば最初にルールや掛け声を設けたりして、子供達の心をつかめるような工夫が必要だと考えています。

クリスマス会では28年度から、スイーツ作りをしていましたが、今回は調理室を使えないため実施できず、行く前は少し寂しい気もしていましたが、子供達の元気と笑顔で、寂しさと寒さはどこかへ行ってしまい、とても楽しいクリスマス会を行うことができたと思います。来年も開催できるようにボランティアセンター学生事務局一同で2019年も頑張っていきます。　　(担当：人文社会科学部2年　磯野雄太郎)

ステンドグラスづくりの様子

夢中になったひっくり返しゲーム

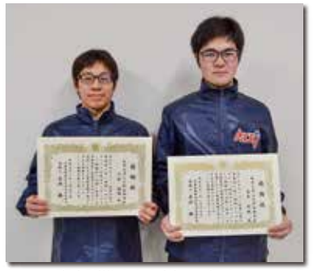
サイバー防犯ボランティアメンバーに感謝状が贈られました

サイバー防犯ボランティアの委嘱は、平成29年度から、青森県警察本部生活安全部と連携して実施している取り組みで、今年度は10名の学生が委嘱を受け、サイバー空間のパトロールや小中学生へのサイバー防犯に係る講演活動などを行っています。

●平成31年1月24日(木)、五所川原警察署による平成30年警察協力功労感謝状贈呈式が開催され、本学の青森県警察サイバー防犯ボランティアの委嘱学生9名が、本年度の活動の一つとして7月7日に実施された五所川原地区少年非行防止JUMPチームにおける小中高生のサイバー防犯の意識向上を図るためのサミットに参加し、子ども達のサイバー防犯意識向上に寄与したことから、今回の受賞となりました。当日は代表として理工学部2年 工藤遼太郎さんが出席し、小坂署長から感謝状が贈呈がありました。

代表で出席した工藤遼太郎さん

●平成31年1月30日(水)に、本学の青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱学生のリーダー人文社会科学部4年 高木利彬さんと、副リーダー人文社会科学部4年 川尻朋輝さんが、青森県警察生活安全部杉山英司保安課長から、県民への広報啓発と、地域青少年のサイバー空間における規範意識の向上のため、積極的に活動したことが評価され感謝状の贈呈がありました。杉山保管課長からは「このサイバー防犯ボランティアで培った経験は必ずどこかで自分に価値あるものとして活きてくる。就職してからも社会へ貢献していってほしい。」とご祝辞をいただきました。


高木利彬さんと川尻朋輝さん

今後も引き続き、サイバー防犯ボランティアに係る活動を継続する予定です。

平成30年度第2回市民ボランティア講座　災害ボランティア活動～わたしたちにできること～」を開催

平成31年1月25日(金)、「平成30年度第2回市民ボランティア講座　災害ボランティア活動～わたしたちにできること～」を開催しました。

第一部として平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震の際、甚大な被害を受けた北海道厚真町の災害ボランティアセンター設立当初から、現地で活動を行なっていた、本センター学生事務局OBで、現北海道小樽市役所職員である南部真人氏による「平成30年北海道胆振東部地震のボランティア活動について～これまでのボランティア活動の経験を活かして～」と題しての講演があり、ボランティアに踏み出すことに、東日本大震災の際に活動した経験が活かされたこと、何ができるかは現地でマッチングしてもらえること、勇気を持っておせっかいをして欲しいことについて講演がありました。

講演する南部氏

救急救命研究会による体験指導

第2部では『避難所設営訓練・体験』として、弘前医療福祉大学短期大学部救急救命研究会による「救急救命講習」、NPO法人青森県防災士会 副代表理事・弘前支部長 工藤廣道氏による「避難所設営ゲーム」、そして講演講師の南部氏と本センター学生事務局による「段ボールベッド・仮設トイレなど組立体験」の3つのブースが開設され、各ブースでは、市民と学生が協力し合いながら作業を行いました。本講座には、学生・自治体職員・教職員・防災士など57名の参加があり、参加者からは、「被災者や被災状況の写真撮影の自粛や、マッチングでのグループ分けなど災害ボランティアの良く知らなかったマナーなどを知ることができた」、「実体験できた組み立て作業や救急法などとても為になった。できることから取り組んでみたいと思うきっかけになった」、「今後も色々な視点から防災、減災に関する教育を継続して欲しい」との感想がありました。

青森県防災士会による避難所設営ゲーム

新聞紙を用いた簡易スリッパ作成